

2014 年度事業報告

1. 会議、広報活動および会員数

(1) 会議の開催状況

(a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
定時 6月22日	(1) 議長の互選について (2) 2013年度事業報告について (3) 2013年度（後期）計算書類（2013年度〔後期〕計算書類、 附属書類〔計算書類関係〕）について
第一回臨時 3月21日	(1) 議長の互選について (2) 2015年度事業計画について (3) 2015年度計算書類（計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について

(b) 理事会

開催年月日	会議内容
第一回通常 6月1日	(1)2013年度（後期）事業報告（案）について (2)2013年度（後期）計算書類（案）（2013年度〔後期〕計算 書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (3)2014年度定時評議員会開催について (4)新入会員の認 (5)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会に よる活動報告
第二回通常 9月23日	(1)2014年学会奨励賞受賞者決定について (2)科学研究費補助金「国際情報発信強化（B）」について (3)新入会員の承認 (4)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会に よる活動報告

第一回臨時 11月14日	(1)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2)2014年度研究大会の実施状況について報告
第二回臨時 12月14日	(1)KAIS との日韓国交正常化 50 周年記念学術交流事業について (2)2014年度研究大会実行委員会会計決算について (3)2014年度第一回臨時評議員会開催について (4)新入会員の承認 (5)理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第三回通常 3月7日	(1)2015年度事業計画(案)について (2)2015年度予算(案)について (3)シニア会員制度の改正について (4)新入会員の承認 (5)学会創設60周年記念部会について (6)理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

(c) 総会

11月15日、福岡市福岡国際会議場において会員総会を開催した。

(1) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行部数
7月5日	Newsletter 140号刊行	会員	2,200部
11月31日	Newsletter 141号刊行	会員	2,200部
1月25日	Newsletter 142号刊行	会員	2,200部
4月25日	Newsletter 143号刊行	会員	2,200部

①Newsletterは学会ウェブサイトで公開している。

(<http://jair.or.jp/publishment/nl.html>)

②Newsletterの目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。今年度も、学会活動に関する会員の疑問に答えるQ&A欄の掲載を継続し、学会活動に関する会員の理解に努めた。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内 12 件、理事会・委員会からの連絡 30 件、研究大会の関連情報 30 件、シンポジウム等の案内や公募情報 46 件、合計 118 件の発信をおこなった。英文頁についても、引き続き拡充を図った。

(2) 会員数の状況

2014 年度新入会員 86 名
退会者 101 名

内訳

会員区分	人数
維持会員	0
一般会員	1,550
学生会員	313
シニア会員	96
夫婦会員	26
合計	2,006

2014 年 3 月 31 日現在

2. 事業の成果

(1) 継続 1. 機関誌・書籍発行事業

1. 和文機関誌『国際政治』177 号「政権交代と外交」、178 号「中東の政治変動」、179 号「科学技術と現代国際関係」、180 号「国際政治研究の先端 12」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保すると同時に、180 号は独立論文号として特に若手研究者がその研究成果を発表する機会を提供した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム (J-STAGE) を活用して、すでに公開された『国際政治』のバックナンバーを今期は 172 号まで公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.14.No.2、同 No.3、Vol.15.No.1 の計 3 冊を発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的な学術交流の最前線として高い水準を維持した。

4. 本年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費 (国際情報発信強化)」を利用して次の事業を行った。①「海外発信強化助成 (海外研究者招聘)」、および「同

(海外研究者国内旅費)」、「同(海外学会等報告支援)」を創設し、会員の国際学術交流を促進するとともに IRAP への投稿を促した。このうち「海外発信強化助成(海外研究者国内旅費)」は、研究大会における若手・院生研究会(“Dialogue between Different IR Traditions for One World”)に利用し、「同(海外学会等報告支援)」は、中山裕美、勝間田弘、謝志海、安部雅人、川口智恵の会員が海外学会等で報告する際に海外渡航費等を助成した。②ISA(国際関係研究学会)に英文ジャーナル編集委員会メンバーが参加し、ISAにおいて研究報告を実施した日本人研究者、海外研究者に IRAP への投稿を呼びかけた。同時に、英文ジャーナル編集委員会の海外委員と会議を行い、投稿促進や編集体制などについて協議した。2016年の研究大会時に開催を予定している学会創設60周年記念部会企画への参加、およびその際の研究報告に基づく IRAP 特集号についても海外研究者と議論を行い、情報を収集した。③会員による IRAP を含む英文誌への投稿を促進するため、研究大会において「IRAP セミナー」を開催した。セミナーでは、英語論文投稿の解説や投稿経験のある会員の経験談を交えたチュートリアルを実施した。④IRAP の国際的な認知度を高めるために、オックスフォード大学出版局(OUP)に協力を依頼して、海外の研究者に対する IRAP の情報提供や他学会における宣伝活動、ウェブでのキャンペーンを行った。

5. IRAP のインパクト・ファクターが昨年夏に発表され、International Relations 分野 85 誌中 56 位となった。

(2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 11月14～16日に福岡市福岡国際会議場において、研究大会を開催した。大会参加者は、事前参加登録477名、当日登録161名、合計638名(市民講座への参加者を含む)、懇親会参加者数は計329名であった。セッション数は共通論題1、部会16、分科会37企画となった。部会15「揺れる中国のガバナンスと周辺国の対応」を市民公開講座として一般に公開し、共通論題を「世界戦争100年、地域紛争・戦争と国際政治—比較国際政治の視点から」と題して、会員の共通の関心に沿ったテーマとし報告、討論を行った。

2. 研究大会における日韓合同部会については、公益財団法人社会科学国際交流江草基金より助成金を獲得した。

3. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

(3) 継 3. 国際学術交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、長谷直哉会員に助成を行った。

2. KAIS（韓国国際関係学会）との交流を行った。12月5日にはソウルにおけるKAIS研究大会に理事長、国際交流委員会主任ら4名が参加し、日韓合同パネル「日中関係と北東アジア地域のリバランス」が実施され、充実した学術交流となった。また、福岡における研究大会（11月15日）では、日韓合同部会“*The ROK, China and Japan: Northeast Asia in Flux*”を開催し、KAISから4名、日本国際政治学会から3名が報告者・討論者として参加した。

3. 福岡研究大会では、日韓合同部会の開催について江草基金より研究集会助成を受けた。

4. International Studies Association (ISA)、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

(4)他 1. 研究活動奨励事業

2014年度の第7回学会奨励賞を、石田智範会員の「日米関係における対韓国支援問題、1977—1981」（『国際政治』176号）に授与した。本賞は2008年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40歳以下の若手執筆者を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。受賞論文は国際的な政治学・国際政治学受賞論文を掲載する *World Political Science Review* に学会から推薦される。2013年度第6回学会奨励賞を受賞した崔慶原会員、及び第7回学会奨励賞受賞者の石田会員による論文英訳に対しては助成を行った。

2. 処務の概要

(1) 役員等に関する事項

2014年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	中西 寛	京都大学教授
副理事長	石田 淳	東京大学教授
理事	飯田 敬輔	東京大学教授
	遠藤 乾	北海道大学教授
	遠藤 貢	東京大学教授
	大島（岡本）美穂	津田塾大学教授

	大矢根 聡 川島 真 佐々木 卓也 篠原 初枝 田村 慶子 都丸 潤子 細谷 雄一 山田 敦	同志社大学教授 東京大学教授 立教大学教授 早稲田大学教授 北九州市立大学教授 早稲田大学教授 慶應義塾大学教授 一橋大学教授
--	---	--

監事	太田 宏 庄司 潤一郎	早稲田大学教授 防衛研究所戦史研究センター長
----	----------------	---------------------------

評議員	赤木 完爾 五百旗頭 真 猪口 孝 遠藤 誠治 大芝 亮 木畑 洋一 久保 文明 国分 良成 古城 佳子 坂元 一哉 下斗米 伸夫 添谷 芳秀 高原 明生 竹中 千春 田所 昌幸 田中 明彦 藤原 帰一	慶應義塾大学教授 熊本県立大学学長 新潟県立大学学長 成蹊大学教授 一橋大学教授 成城大学教授 東京大学教授 防衛大学校校長 東京大学教授 大阪大学教授 法政大学教授 慶應義塾大学教授 東京大学教授 立教大学教授 慶應義塾大学教授 独立行政法人国際協力機構理事長 東京大学教授
-----	---	--

【一般財団法人 日本国際政治学会】

2014 年度事業報告・付属明細書

1. 2014 年度日本国際政治学会研究大会プログラム

11 月 14 日（金）

受付開始： 12：00

午後の部会（13：00～15：30）

部会 1 文化外交の光と陰

司会・討論 平野健一郎（東洋文庫）

報告 齋藤嘉臣（京都大学）

「『イギリスの投影』と文化発信一戦間期、戦後初期を中心に」

川村陶子（成蹊大学）

「ドイツ対外文化政策の刷新と継続—歴史的考察」

坂井一成（神戸大学）

「現代フランス文化外交の戦略と課題」

討論 近藤誠一（近藤文化・外交研究所〔元文化庁長官〕）

部会 2 国際関係の中の民族問題—歴史考察

司会 大芝亮（一橋大学）

報告 篠原初枝（早稲田大学）

「国際連盟と少数民族問題」

野田岳人（群馬大学）

「ソ連における民族マイノリティの強制移住とその背景—チェチェンを事例として」

六鹿茂夫（静岡県立大学）

「冷戦後の民族と国際安全保障—ウクライナ危機を中心として」

討論 玉井雅隆（立命館大学）

上野俊彦（上智大学）

部会 3 第一次世界大戦とアジア—日本・中国・インドと国際秩序の変容

司会 高原秀介（京都産業大学）

報告 奈良岡聰智（京都大学）

「第一次世界大戦と日中関係—二十一カ条要求を中心として」

上田知亮（京都大学）

「第一次世界大戦と英印関係—植民地ナショナリストからみた帝国秩序」

菅原健志（イーストアングリア大学）

「第一次世界大戦後のアジア国際秩序とイギリス外交—アーサー・バルフォア
の外交構想を中心として」

討論 川島真（東京大学）

君塚直隆（関東学院大学）

部会 4 Information Transmission and International Relations 【IRAP 部会】

Chair : Atsushi Tago(Kobe University)

Paper Presenters : Steve Pickering (Kobe University) and Rob Johns

(University of Essex)

“Cui bono on Benefits Street?”

Tom Scotto (University of Essex)

“Playing tough? : British and American Attitudes
towards China’s Economic and Military Power”

Atsushi Tago (Kobe University) and Maki Ikeda

(University of Tokyo)

“How to Lose Foreign Domestic Support for Use of
Force : Difference in Expected and Surprise Veto in
The UN Security Council”

Discussant : Shoko Kohama (Hokkaido University)

部会 5 「外交と国内政治」（自由論題部会）

司会・討論 増田弘（東洋英和女学院大学）

報告 モロジャコフ・ワシーリー（拓殖大学）

「ソ連・コミンテルンから見た日本統治時代の台湾」

滝田遼介（慶應義塾大学）

「昭和期日本における『北進』に関する一考察—1939年秋期におけ
る対外戦略の模索を中心に」

長澤裕子（東京大学）

「米韓原子力協定（1956年）に関する一考察」

高橋美野梨（北海道大学）

「自治と気候変動—デンマーク領グリーンランドにおける『対外的自
治』『対内的自治』」

討論 後藤春美（東京大学）

11月15日(土)

午前の部会(9:30~12:00)

部会6 The ROK, China and Japan : Northeast Asia in Flux 【日韓合同部会】

Co-Chairs : Nakanishi, Hiroshi (President, JAIR)

Nam, Gung-Young (President, KAIS)

Speakers : Kamo, Tomoki (Keio University)

“China’s New Periphery Diplomacy and its East Asian Neighbors”

Hwang, Jae-Ho (Hankuk University of Foreign Studies)

“South Korea’s New China Policy”

Park, Byung Kwang (The Institute for National Security Strategy)

“China’s Policy toward North Korea in the Xi Jinping Era”

Discussant : Kim, Joonsub (Korean National Defense University)

Nakayama, Toshihiro (Kobe University)

部会7 新たな経済交渉方式としての TPP—異なるディシプリンからのアプローチ

司会 古城佳子(東京大学)

報告 菊池努(青山学院大学)

「アジア太平洋の制度競争の中の TPP」

西山隆行(成蹊大学)

「アメリカの FTA 政策と TPP—地域研究・比較政治学の観点から」

石黒馨(神戸大学)

「官邸主導の TPP 交渉と農政改革—2 レベルゲーム分析」

討論 大矢根聡(同志社大学)

部会8 グローバル化時代における覇権理論の再検討

司会 猪口孝(新潟県立大学)

報告 Le Lien Thi Quynh(長岡科学技術大学)

「国連寄託 120 国間条約データに基づく『覇権なき協調パラダイム』の検証」

渡邊松男(新潟県立大学)

「経済開発としての国際レジームはどのような進展および停滞を経験したか？」

足立研幾（立命館大学）

「パワーシフトと軍縮・軍備管理レジーム」

討論 飯田敬輔（東京大学）

部会 9 日米安保体制の再検討—冷戦変容期と冷戦後における対等性と従属性

司会 菅英輝（京都外国語大学）

報告 中島琢磨（龍谷大学）

「冷戦秩序の変容と日米安保体制」

初瀬龍平（京都女子大学）

「日米関係のバランスシートと日米安保体制」

豊下檜彦（元関西学院大学）

「安全保障環境の変動と安保体制」

討論 滝田賢治（中央大学）

黒崎輝（福島大学）

部会 10 日本の国際政治を考える

日本の「リベラリズム」の再検討—理論・地域研究における権力批判の諸相

司会 三上貴教（広島修道大学）

報告 松田哲（京都学園大学）

「植民政策学からの国際関係論構築とその後の展開—川田侃の研究を中心に」
定形衛（名古屋大学）

「東欧地域研究と権力批判—木戸菘の研究を中心に」

戸田真紀子（京都女子大学）

「アイデンティティ研究と国際関係論—馬場伸也の研究を中心に」

討論 林忠行（京都女子大学）

土佐弘之（神戸大学）

【共通論題】世界戦争100年、地域紛争・戦争と国際政治—比較政治の視点から

15:20~18:10 3階メインホール

司会 国分良成（防衛大学校）

報告 馬場優（福岡女子大学）

「第1次世界大戦—ハプスブルグ帝国とセルビア・ナショナリズム」

油井大三郎（東京女子大学）

「第2次世界大戦と覇権移動—その記憶の抗争に注目して」

酒井啓子（千葉大学）

「中東の『長い戦後』と『短い革命後』—サイクスピコと 79 年体制の終焉？」

宇山智彦（北海道大学）

「クリミア後のユーラシア国際秩序と地域紛争—帝国競争の再来？」

討論 田中明彦（独立行政法人国際協力機構）

渡邊啓貴（東京外国語大学）

総会（18：10～18：40）

懇親会（19：00～20：30）

11月16日（日）

IRAP セミナー（12：00～14：00）

司会 多湖淳（神戸大学）

プレゼンター 土屋智子、的場美希、佐々木美保（オクスフォード大学出版局）、佐藤洋一郎（立命館アジア太平洋大学）、倉科一希（広島市立大学）

午後の部会（14：00～16：00）

部会 11 日本の国際政治学を考える

日本における国際政治学教育のあり方—英語授業の可能性と限界

司会 山本吉宣（新潟県立大学）

報告 清水耕介（龍谷大学）

「非西洋型国際関係理論の英語での教授法—矛盾とアンビバレンス」

Matthew Linley（名古屋大学）

「日本の大学生は、英語開講の政治学講義でどのように学術知識を学ぶのか」

上村威（新潟県立大学）

「英語による国際政治教育の課題」

討論 佐藤洋一郎（立命館アジア太平洋大学）

信田智人（国際大学）

部会 12 NATO 核共有制度の起源—1956—1957 年の同盟危機を中心に

司会・討論 倉科一希（広島市立大学）

報告 新垣拓（防衛研究所）

「米国による初期の NATO 核シェアリング制度案」

岩間陽子（政策研究大学院大学）

「アデナウアー政権と西ドイツの核保有問題」

川嶋周一（明治大学）

「ユーラトムの成立とヨーロッパ核秩序—統合・自立・分散 1955—1958」

討論 赤木完爾（慶應義塾大学）

部会 12 日本の ODA60 周年—評価と課題

司会 田所昌幸（慶應義塾大学）

報告 保城広至（東京大学）

「日本の ODA とアジア地域関係の 60 年—パネルデーターによる計量分析」

高柳彰夫（フェリス女学院大学）

「世界の援助潮流と日本の ODA 政策」

長有紀枝（立教大学）

「人道と『人間の安全保障』の課題からみる日本の ODA—その評価と課題」

討論 福島安紀子（東京財団）

高橋基樹（神戸大学）

部会 14 緊迫の米欧ロ関係とユーラシア情勢—紛争をめぐる協調と相克

司会 伊藤孝之（早稲田大学）

報告 鶴岡路人（防衛研究所）

「NATO における抑止と安心供与—ウクライナ危機をうけての新たな課題」

小副川琢（東京外国語大学）

「米欧ロ関係と中東情勢—シリアに事例を中心に」

末澤恵美（平成国際大学）

「ウクライナ危機と対米欧ロ関係」

討論 袴田茂樹（新潟県立大学）

細谷雄一（慶應義塾大学）

部会 15 揺れる中国のガヴァナンスと周辺国の対応【兼・市民公開講座】

司会 中岡まり（常磐大学）

報告 阿古智子（東京大学）

「中国の『公共圏』をめぐる問題」

星野昌裕（南山大学）

「中国のガヴァナンスと民族問題—チベット・ウグイ問題を事例に」

三宅康之（関西学院大学）

「『政令不出中南海』—中国における中央地方関係の現状」

討論 鈴木隆（愛知県立大学）
湯川拓（大阪大学）

部会 16 グローバル／地域ガバナンスの諸相（自由論題部会）

司会・討論 吉川元（広島市立大学）

報告 上村雄彦（横浜市立大学）

「気候資金ガバナンスに見るグローバル・タックスと地域環境ガバナンスの交差」

宮崎孝（名古屋経済大学）

「人道的介入の法的根拠の再検討」

古賀慶（南洋理工大学）

「地域安全保障機構の制度変化—ASEAN と ECOWAS の比較検証」

李永澍（明治大学）

「EU における「武器輸出に関する行動規範」の設立経緯の再考（1989—2008）—EU 加盟国の政策決定過程における中国要因を中心に」

討論 西谷真規子（神戸大学）

日本国際政治学会 2014 年度研究大会分科会プログラム

◆11月14日（金）

分科会セッション A（15：45～17：15）

A-1 日本外交史 I

責任者 加藤聖文（国文学研究資料館）

テーマ 日米安保体制の再考

司会 加藤聖文（国文学研究資料館）

報告 鍛冶一郎（大阪大学）

「安保条約と条約期限—日米同盟強化の道のり」

藤田吾郎（早稲田大学）

「対日講和と『国内治安問題』—『内乱条項』挿入をめぐる日米政府の構想」

小島吉之（大阪大学）

「安保改定と秘密保護—なぜ防諜法案は挫折したのか？」

A-2 欧州国際政治史・欧州研究 I

責任者 芝崎祐典（成蹊大学）

テーマ ヨーロッパ大陸の外から見る地域、統合、ナショナリズム

- 司会 板橋拓己（成蹊大学）
報告 大島美穂（津田塾大学）
「戦間期欧州国際秩序への二つの志向性—ノルウェーの極地における国際協調主義と領土拡張主義」
石野裕子（常磐短期大学）
「カレリア学徒会の『大フィンランド』—戦間期フィンランドにおける領土膨張思想と運動」
池本大輔（明治学院大学）
「アラン・ミルワード再考」
討論 八十田博人（共立女子大学）
森井裕一（東京大学）

A-3 東アジア国際政治史

責任者 岩谷将（防衛研究所）

- テーマ 冷戦期中国・台湾の外交
司会 岩谷将（防衛研究所）
報告 米多（東京大学）
「冷戦期における中華民国の外交政策（1950-1975）」
杉浦康之（防衛研究所）
「日中『断絶』期における中国の対日政策（1958年5月-1960年7月）」
討論 清水麗（東京大学）
大澤武司（熊本学園大学）

A-4 東アジア I

責任者 西野純也（慶應義塾大学）

- テーマ 日韓関係の新しいアクター
司会 西野純也（慶應義塾大学）
報告 ブフ・アレクサンダー（ウェリントン・ビクトリア大学）
「竹島・独島領土問題と日本及び韓国における非国家主体」
李苑暻（早稲田大学）
「日韓サイバー空間での右翼の形成とこの影響に関する研究」
討論 磯崎典世（学習院大学）
西野純也（慶應義塾大学）

A-5 東南アジア I

責任者 山田満（早稲田大学）

- テーマ 自由論題
司会 永井史男（大阪市立大学）

- 報告 島崎裕子（早稲田大学）
「人の移動と国境管理の関係ータイ・カンボジア国境地域・ポンペトを事例に」
- 本多倫彬（慶應義塾大学）
「東ティモールと日本の平和構築政策ー『平和構築支援』の変化に焦点をあてて」
- 峯田史郎（早稲田大学）
「境界地域における生活者の領域管理ーミャンマー・シャン州南部ロイタイレン村を事例に」
- 討論 石井由香（静岡県立大学）
山田満（早稲田大学）

A-6 理論と方法 I

責任者 石黒馨（神戸大学）

- テーマ 国内紛争の実証分析ー内戦の過程、終了、平和構築
- 司会 市原麻衣子（関西外語大学）
- 報告 大林一広（一橋大学）
「権力分有協定の効果の検証」
- 大村啓喬（滋賀大学）
「軍事勝利と内戦後の平和期間」
- 窪田悠一（新潟県立大学）
「反乱軍の脅威と政府による市民の弾圧ーグアテマラ内戦を事例として」
- 討論 山本吉宣（新潟県立大学）

A-7 国際研究 I

責任者 山田哲也（南山大学）

- テーマ 自由論題
- 司会 山田哲也（南山大学）
- 報告 佐藤裕視（東京大学）
「植民地独立をめぐる国際的『了解』の形成と国連の役割ー国連信託統治領の早期脱植民地化を事例に」
- 赤星聖（日本学術振興会／神戸大学）
「『国内避難民』保護をめぐる国際レジームの動態」
- 討論 山田哲也（南山大学）

分科会セッション B (17:30~19:30)

B-1 欧州国際政治史・欧州研究Ⅱ

責任者 芝崎祐典（成城大学）

テーマ 冷戦史研究の先端

司会 芝崎祐典（成城大学）

報告 益田実（立命館大学）

「冷戦史研究の近年の動向と冷戦像をめぐる議論」

松本佐保（名古屋大学）

「冷戦史研究への新視点ーグラディオオ作戦とイタリア」

岡本宜高（関西学院大学）

「キャラハン政権期のイギリス安全保障政策とヨーロッパにおける冷戦の展開」

討論 倉科一希（広島市立大学）

B-2 東南アジアⅡ

責任者 山田満（早稲田大学）

テーマ 自由論題

司会 山田満（早稲田大学）

報告 高橋正樹（新潟国際情報大学）

「タイの2006年クーデタをめぐるグローバル化時代の分裂社会と国家エリート」

森川裕二（長崎大学）

「ラオスの地域秩序形成と国民統合プロセス」

山根健至（福岡女子大学）

「フィリピンの治安部門ガバナンスと市民社会組織ーアキノ3世政権下の取り組みを中心に」

討論 相澤伸広（九州大学）

吉川健治（東洋英和女学院大学）

B-3 中東

責任者 末近浩太（立命館大学）

テーマ 中東諸国における軍のパワーとアイデンティティ

司会 末近浩太（立命館大学）

報告 餅井雅大（防衛研究所）

「イスラエル国防軍とアイデンティティと軍事史ー機関誌『マアラホット』の言説分析

吉川卓郎（立命館アジア太平洋大学）

「国王陛下の軍隊ーヨルダン・ハシミテ国王の『軍事力』の再検討」

討論 池田明史（東洋英和女学院大学）

B-4 理論と方法Ⅱ

責任者 石黒馨（神戸大学）

テーマ 国際政治の理論—史観・秩序・暴力

司会 石黒馨（神戸大学）

報告 山下範久（立命館大学）、安高啓朗（立命館大学）、芝崎厚士（駒澤大学）

「ウエストファリア史観を脱構築する—言説、理論、歴史」

福田潤一（世界平和研究所）

「国際関係における階層的秩序の考察—ポスト冷戦期の米国外交を題材に」

伊藤岳（東京大学）

「内戦における暴力行使とその帰結」

討論 竹内俊隆（大阪大学）

B-5 国際統合

責任者 山本直（北九州市立大学）

テーマ 地域統合の現段階

司会 山本直（北九州市立大学）

報告 岩野智（早稲田大学）

「EUにおける開発協力政策と共通外交・安全保障政策の連結—対アフリカ紛争予防・平和構築支援のための制度的仕組み」

大道寺隆也（早稲田大学）

「対テロ政策をめぐる国際機構間関係—地域的国際機構の《協力》と《抵抗》」

浦川紘子（立命館大学）

「EU 刑事司法協力の対外関係—日・EU 関係を中心として」

齋藤亜紀人（早稲田大学）

「地域統合と環境の保全・保護—EU と ASEAN における加盟国・地域的機関の関係と共通ルール的发展」

討論 八谷まち子（九州大学）

鷺江義勝（同志社大学）

B-6 安全保障Ⅰ

責任者 福田毅（国立国会図書館）

テーマ 自由討論

司会 福田毅（国立国会図書館）

報告 原田有（防衛省防衛研究所）

「海洋法秩序の下での権益を巡る国家間対立—南シナ海問題の考察」

中村長史（東京大学）

「撤退決定の政治過程—イラク駐留はなぜ長期化したのか」

彦谷貴子（防衛大学校）

「日本にシビル・ミリタリー・ギャップは存在するか—2004年、2014年幹部自衛官・文民エリート意識調査結果の比較分析」

討論 道下徳成（政策研究大学院大学）

福田毅（国立国会図書館）

B-7 国際政治経済

責任者 毛利勝彦（国際基督教大学）

テーマ ブレトンウッズ会議から70年後の国際政治経済

司会 毛利勝彦（国際基督教大学）

報告 大森佐和（国際基督教大学）

「IMFは変わったか—世界金融危機後の国際通貨基金の変革の検証」

杉之原真子（東京大学）

「為替相場の選好をめぐる政治経済学」

内記香子（大阪大学）

「規制・基準の増加が国際貿易体制に与える影響—競争とフラグメンテーションを超えて」

柳蕙琳（京都大学）

「日本と韓国のFTA政策の比較制度分析—農業での自由化水準の違いと利益団体誘導説の再考」

討論 和田洋典（青山学院大学）

小野美千代（南山大学）

B-8 国際交流

責任者 岸清香（都留文科大学）

テーマ 自由討論

司会 岸清香（都留文科大学）

報告 斎川貴嗣（日本学術振興会）

「知的協力から国際文化交流へ—1930年代国際連盟知的協力国際委員会における理念変容」

大鳴えり子（早稲田大学）

「フランスにおけるアルジェリアの植民地支配と独立戦争の記憶—記憶を承認する法律をめぐって」

牧田東一（桜美林大学）、堀内めぐみ（桜美林大学）

「パブリック・ディプロマシーを通じた知識共同体形成の可能性とそのインパクト—日本財団APIプログラムを例として」

討論 大沼保昭（明治大学）

重政公一（関西学院大学）

◆11月5日(土)

分科会セッションC(13:30~15:10)

C-1 アメリカ政治外交 I

責任者 中嶋啓雄(大阪大学)

テーマ 冷戦変容期のアメリカ外交

司会 松岡完(筑波大学)

報告 山本章子(一橋大学)

「米国の海外基地政策としての安保改定—ナッシュ・レポートをめぐる
米国政府内の検討」

島村直幸(杏林大学)

「英米の『特別な関係』の再構築—1956 - 1963年」

栢山剛(宮崎第一高等学校)

「1968年におけるアメリカのベトナム戦争和平交渉政策—ジョンソン大
統領とニクソンの政策を比較しながら」

討論 藤本博(南山大学)

橋口豊(龍谷大学)

C-2 ロシア東欧

責任者 湯浅剛(防衛研究所)

テーマ 自由討論

司会 小森宏美(早稲田大学)

報告 宮崎悠(北海道教育大学)

「戦間期ヨーロッパにおけるマイノリティ問題と歴史観の比較—ポーラ
ンド=ユダヤ関係史を中心に」

長谷川雄之(東北大学)

「プーチン政権(2000年5月~)の政治改革とロシア連邦安全保障会議
の権限及び機能強化」

斎藤元秀(中央大学)

「ウクライナ危機とプーチンの戦略の検討」

討論 伊東孝之(早稲田大学)

武田善憲(外務省)

C-3 東アジア II

責任者 西野純也(慶應義塾大学)

テーマ 現代中国の政治体制と対外政策

司会 加茂具樹(慶應義塾大学)

報告 杜崎群傑(中央大学)

「中国における『選挙権威主義』体制を確立する手段としての『人民代表会議』制度」

謝志海（共愛学園前橋国際大学）

「中国の海洋大国戦略及び海洋領土紛争への影響」

討論 加茂具樹（慶應義塾大学）

毛利亜樹（筑波大学）

C-4 アフリカ

責任者 牧野久美子（アジア経済研究所）

テーマ アフリカにおける民主主義の現在—政権の継続・交代をめぐる諸要因

司会 牧野久美子（アジア経済研究所）

報告 濱野ちひろ（法政大学）

「地方分権化が選挙へ与える影響—ウガンダにおける地方選挙から」

長辻貴之（早稲田大学）

「クーデターと政権交代をめぐる力学—セネガルとコートジボワールを事例に」

坂田有弥（大阪大学）

「ジンバブエの『民主化』をめぐる国際社会の捻れ—土地問題と2013年総選挙からの—考察」

討論 岩田拓夫（立命館大学）

C-5 安全保障Ⅱ

責任者 福田毅（国立国会図書館）

テーマ 1970年代の日米同盟再考

司会 福田毅（国立国会図書館）

報告 野添文彬（沖縄国際大学）

「ベトナム戦争後の在沖米軍再編と日米関係—在沖海兵隊を中心に」

吉田真吾（名古屋商科大学）

「日米防衛協力の起源」

討論 佐道明広（中京大学）

楠綾子（関西学院大学）

C-6 政策決定

責任者 信田智人（国際大学）

テーマ 政治過程と規範

司会 信田智人（国際大学）

報告 溜和敏（日本学術振興会）

「政治過程が外交交渉の及ぼす影響—印米原子力協力交渉を事例に」

畠山京子（関西外国語大学）

「合理的選択と国内規範の相克—武器輸出三原則を事例として」
討論 藤田泰昌（長崎大学）

C-7 平和研究 I

責任者 南山淳（筑波大学）

テーマ 国際政治学と平和研究
司会 市川ひろみ（京都女子大学）
報告 杉浦功一（和洋女子大学）
「関寛治の平和学と地球政治学構想」
佐々木寛（新潟国際情報大学）
「平和研究とパワー・ポリティクス—高柳先男の政治的リアリズム」
宮下豊
「鴨武彦によるリアリズム批判の意味」
討論 遠藤誠治（成蹊大学）

C-8 ジェンダー

責任者 戸田真理子（京都女子大学）

テーマ イスラーム世界と女性—イスラーム研究とジェンダー研究の対話
司会 田村慶子（北九州市立大学）
報告 森田豊子（鹿児島大学）
「現代イランの家族保護法の成立をめぐる論議」
辻上奈美江（東京大学）
「『アラブの春』による身体の管理と表象、そして女性のエージェンシー」
討論 松尾昌樹（宇都宮大学）

C-9 環境 I

責任者 石井敦（東北大学）

テーマ 東アジアにおける越境大気汚染の国際政治学
司会 亀山康子（国立環境研究所）
報告 宮崎麻美（熊本学園大学）
「交渉における協力・非協力の構造—ネットワーク分析からみた東アジア酸性雨モニタリング・ネットワーク（EANET）」
岡本哲明（東北大学）
「東北アジアにおける大気環境管理枠組み形成の停滞要因—越境大気汚染の科学評価の観点から」
宮後裕充（東北大学）
「日本の越境大気汚染外交と科学—臨界負荷量研究を事例に」
討論 高村ゆかり（名古屋大学）

◆11月16日(日)

分科会セッションD(9:30~11:00)

D-1 日本外交史II

責任者 加藤聖文(国文学研究資料館)

テーマ 戦後日本外交再考

司会 加藤聖文(国文学研究資料館)

報告 山口航(同志社大学)

「総合安全保障の受容」

武田悠(日本原子力研究開発機構)

「米国の対外原子力政策をめぐる日米欧の相克—包括的事前同意制度の形成過程 1977 - 1982」

D-2 アメリカ政治外交II

責任者 中嶋啓雄(大阪大学)

テーマ 20世紀前半のアメリカ外交と東アジア

司会 中嶋啓雄(大阪大学)

報告 伊丹明彦(京都大学)

「ニューヨーク駐在ソ連非公式代表ボリス・スクヴィルスキーとワシントン体制の展開」

中沢志保(文化学園大学)

「原爆と戦後世界—ヘンリー・スティムソンの視点から」

討論 高光佳絵(千葉大学)

菅英輝(京都外国語大学)

D-3 理論と方法III

責任者 石黒馨(神戸大学)

テーマ 途上国政治の計量分析

司会 浜中新吾(山形大学)

報告 岡田勇(京都大学)

「資源レントと抗議運動—ラテンアメリカ18か国の世論調査データを基にしたマルチレベル分析」

中井遼(立教大学)

「後発民主主義国ナショナリズムに選挙が与える影響の計量分析」

浜中新吾(山形大学)、高岡豊(中東調査会)、溝渕正季(名古屋商科大学)

「シリア避難民の流入がもたらすレバノン市民の態度変容—自然実験によるアプローチ」

討論 河野勝（早稲田大学）

D-4 安全保障Ⅲ

責任者 福田毅（国立国会図書館）

テーマ イランの核問題をめぐる国際情勢

司会 川上高司（拓殖大学）

報告 宮本悟（聖学院大学）

「北朝鮮とイラン核・ミサイル問題—北朝鮮による対中東軍事協力からの試論」

坂梨祥（日本エネルギー経済研究所）

「イラン・イスラーム共和国の核政策—自立的な安全保障の追及とその限界」

討論 横田貴之（日本大学）

池内恵（東京大学）

D-5 国連研究Ⅱ

責任者 山田哲也（南山大学）

テーマ 国連平和維持活動（PKO）を巡る諸問題

司会 望月康恵（関西学院大学）

報告 坂田啓子（防衛大学校）

「国連平和維持活動の不偏性原則—国連コンゴ民主共和国活動を事例として」

都築正泰（内閣府）

『第4世代』国連PKOの確立期における安保理の政治指導（1999 - 2004年）

討論 上杉勇司（早稲田大学）

D-6 平和研究Ⅱ

責任者 南山淳（筑波大学）

テーマ 暴動と武力紛争をめぐる政治力学

司会 南山淳（筑波大学）

報告 富樫耕介（日本学術振興会）

『二重の対立構造』—チェチェン紛争の分析枠組み」

油井美春（広島大学）

「暴動後社会におけるコミュニティ・ポリシング活動の効果—事例を中心として」

討論 中溝和弥（京都大学）

野田岳人（群馬大学）

分科会セッション D・E (9:30~12:45)

D・E-1 若手研究者・院生研究会 責任者 鈴木啓之 (東京大学)
(使用言語: 英語)

Title Dialogue between Different IR Traditions for One World:
Western IR and the Challenge of non-Western/post-Western IR
Chair: Kazuhiro Tsunoda (Meiji University)
Speakers: Wiebke Wemheuer-Vogelaar (Freie Universitat Berlin)
“The Diffusion of IR Theory: The Journey of a Thousand
Miles Starts with a Single Citation”
Peter Marcus Kristensen (University of Copenhagen)
“(How) can the ‘Non-West’ Speak? On Emerging Powers
and IR Discourse”
Josuke Ikeda (University of Toyama)
“From Territory to Travel: A Worldist Case for Post-Western
IR”
Kohei Imai (Japan Society for the Promotion of Science)
“The Middle Eastern Contributions to Theory of
International Relations: The Case for Turkey”
Tao Xu (Kyusyu University)
“The Emergence of the ‘Chinese School?: The ‘Sinicization’
of International Relations Theory in China”
Discussant: Ching-Chang Chen (Ritsumeikan Asia Pacific University)
Shiro Sato (Osaka International University)

分科会セッション E (11:15~12:45)

E-1 日本外交史Ⅲ 責任者 加藤聖文 (国文学研究資料館)

テーマ 戦前日本外交研究
司会 加藤聖文 (国文学研究資料館)
報告 帯谷俊輔 (東京大学)
「中国問題の国際連盟提起をめぐる日英協調の不在—山東還付問題
から満州事変まで」
矢嶋光 (大阪大学)
「戦間期『新外交』論者と戦後冷戦秩序—芦田均の積極的再軍備論
再考」

E-2 欧州国際政治史・欧州研究Ⅲ

責任者 芝崎祐典（成城大学）

テーマ 戦後イギリス帝国研究の先端

司会 芝崎祐典（成城大学）

報告 佐藤尚平（金沢大学）

「脱植民地化研究の新地平—新出資料『帝国の遺産作戦』関連文書群の解題」

藤寄弘一（早稲田大学）

「イギリスの『ユーラフリカ』構想と戦後計画室、1942 - 1945 年—西欧ブロック、帝国戦略、冷戦」

討論 後藤春美（東京大学）

E-3 ラテンアメリカ

責任者 松本八重子（亜細亜大学）

テーマ ラテンアメリカ・カリブの諸相

司会 遠藤貢（東京大学）

報告 内田みどり（和歌山大学）

「2014年ウルグアイ大統領選挙」

小池康弘（愛知県立大学）

「キューバの新しい『外交革命』—イデオロギー・プラグマティズム・ソフトパワー」

松本八重子（亜細亜大学）

「トリニダード・トバコの政党政治、エスニシティと外生的要因」

討論 岡部恭宜（JICA 研究所）

E-4 トランスナショナル

責任者 石井由香（静岡県立大学）

テーマ 自由討論

司会 鈴木規子（東洋大学）

報告 加藤恵美（早稲田大学）

「植民地責任としての多文化主義？—イギリス移民教育政策の検討」

小阪裕城（一橋大学）

「『世界へのアピール』とその後—全米黒人地位向上協会、国際連合と冷戦 1945 - 1953」

討論 柄谷利恵子（関西大学）

E-5 環境Ⅱ

責任者 石井敦（東北大学）

テーマ 自由討論

- 司会 石井敦（東北大学）
 報告 蟹江憲史（東京工業大学）
 「レジームと目標アプローチによる問題解決の補完性—持続的可能な
 開発目標の新規性とチャレンジ」
 井口正彦（東京工業大学／国連大学）
 「環境規制の収斂にみる気候変動ガバナンス—欧州・日本・米国の自
 動車燃費規制を事例として」
 横田将志（日本大学）
 「途上国による地域環境協力—大メコン圏（GMS）における環境協力
 を事例として」
 討論 勝間田弘（金沢大学）

2. 和文学機関誌『国際政治』177号～180号掲載論文

『国際政治』177号
木宮正史「序論 政権交代と外交」
井上一郎「政権交代における中国外交の変化と継続性」
黄 偉 修「台湾における政権交代と外交安全保障政策決定過程」
金 栄 鎬「韓国の政権交代と対日政策」
吉田 徹「政権交代とミッテラン外交」
陶山宣明「政権交代と移民政策」
中西嘉宏「パーリア国家の自己改革」
錦田愛子「ハマースの政権掌握と外交政策」
黄 洗 姫「沖縄返還と日米安全保障協議」
武田 健「EU 政府間交渉における威圧的な脅し」
池上萬奈「第一次石油危機における日本外交」
書評：毛利勝彦、小林誠、池田亮

『国際政治』178号
末近浩太「序論 中東の政治活動」
泉 淳「米国と中東の政治変動」
浜中新吾「アラブ革命の陰で」
今井 静「ヨルダンにおけるシリア難民受入の展開」
中村 覚「サウディアラビアのシリア政策での国内治安対策による制約」
溝渕正季「『見えない敵』への爆撃」

千葉悠志「アラブ諸国における権威主義的体制を支えたメディアの考察」
山尾 大「外部介入による政治変動と国民統合」
小阪真也「中東における国家体制変動と移行期の正義の進展」
岩坂将充「トルコにおける『民主化』の手法」
書評論文：信夫隆司「ウォルツは国際政治理論の世界に何を残したのか」
書評：酒井哲哉、石黒馨、金ゼンマ、千知岩正継

『国際政治』179号

山田 敦「序論 科学技術と現代国際関係」
佐藤丙午「技術開発と安全保障貿易管理」
高木 綾「技術貿易をめぐる国内政治プロセス」
土屋大洋「サイバーセキュリティとインテリジェンス機関」
須田祐子「サイバーセキュリティの国際政治」
富岡 勲「軍事技術の同盟国への拡散」
川久保文紀「北米国境のテクノロジー化」
吉田直未「国際制度の競争歪曲効果」
澤田眞治「ブラジルのハイテク政策と対外関係」
佐藤悠子「文化大革命期中国におけるアインシュタイン批判」
秋山信将「核技術ガバナンスの態様」
書評：吉次公介、上村直樹、臼井陽一郎、ロメロ・イサミ

『国際政治』180号

大山貴稔「『国際貢献』に見る日本の国際関係認識」
安達亜紀「EU 科学物質政策の変化とドイツ」
藤山一樹「英米戦債協定の成立とイギリス外交、一九二〇―一九二三年」
鶴田 綾「ルワンダにおける歴史認識と民族対立」
宮下 豊「ニーバーとバターフィールドにおける自己義認批判」
帯谷俊輔「中国の対外紛争の国際連盟提起をめぐる国際関係、
一九二〇―一九三一」
松寄英也「ソ連邦の解体と事実上の国家形成」
芝井清久「欧州の核不拡散と東アジアの核拡散の因果関係」
中谷直司「同盟はなぜ失われたのか」
書評論文：中山俊宏「オバマの対中東政策」
益尾知佐子「中国と国際関係論」
書評：松本佐保、大賀哲、勝間靖

3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific*

Vol.14.No.2, Vol.14.No3, Vol.15.No1 掲載論文

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.14.No.2

Tongfi Kim, “Asymmetric strategic problems in nuclear nonproliferation”
Mark Beeson and Richard Higgott, “The changing architecture of politics in the Asia-Pacific : Australia’s middle power moment?”
Gürol Baba and Taylan Özgür Kaya, “Testing the creativity of Kevin Rudd’s middle power diplomacy : EU-Australia partnership framework versus the Asia-Pacific community”
Ian Tsung-yen Chen, “Balance of payments and power : assessing China’s global and regional interdependence relationship”
Maki Ikeda and Atsushi Tago, “Winning over foreign domestic support for use of force : power of diplomatic and operational multilateralism”
Book Reviews

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.14.No.3

Van Jackson, “Power, trust, and network complexity: three logics of hedging in Asian security”
Galia Press-Barnathan, “The impact of regional dynamics on US policy toward regional security arrangements in East Asia”
Yuichi Kubota and Shinya Sasaoka, “Changes in the socioeconomic structure and The attitude of citizens toward democracy in the Nepali civil war”
Timothy Rich, “Propaganda with purpose: uncovering patterns in North Korean Nuclear Coverage, 1997-2012”
Michael Strausz, “Executives, legislatures, and whales: the birth of Japan’s scientific whaling regime”
Book Reviews

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.15.No.1

Xinyuan Dai, “Who defines the rules of the game in East Asia? The Trans-Pacific Partnership and the strategic use of international institutions”
Michael Cohen and Andrew O’Neil, “Doubts down under: American extended deterrence, Australia, and the 1999 East Timor crisis”
Joseph Mackay, “Rethinking the IR theory of empire in late imperial China”
Michael I. Magcamit and Alexander C. Tan, “Crouching tiger, lurking dragon: understanding Taiwan’s sovereignty and trade linkages in the twenty-first

century”

Aglaya Snetkov and Marc Lanteigne, “ ‘The Loud Dissenter and its Cautious Partner’ – Russia, China, global governance and humanitarian intervention”

Xiaochen Su, Chung-li Wu, Yen-chieh Liao, Tai-De Lee and Chen Tsao, “The rationale for supporting nuclear power: analysis of Taiwanese public opinion survey”

Book Reviews

4. 「会員に関する規則」の改定

1 会員制度の現状

会員の種別については定款 33 条においてこれを定めている。会員の特典（会員に関する規則第 6 条）を享受するために納付すべき会費については、会員種別ごとに定められている（会員に関する規則第 4 条）。

大区分	小区分	年会費	大会参加費	人数 (2014 年 3 月)
通常会員	一般会員	14,000 円	3,000 円	1,550 人
	学生会員	14,000 円	0 円	313 人
	シニア会員	10,000 円	3,000 円	96 名
	夫婦会員	10,000 円	3,000 円	26 人 (13 組)
維持会員				

(注) 海外会員については送料 1,000 円が一律に加算される（ただし、夫婦会員の場合は 500 円）。

定款

(会員)

第 33 条 本会の会員は次のとおりとする。

(1) 維持会員 本会の目的及び事業に賛同する法人又は団体

(2) 通常会員 本会の目的及び事業に賛同する個人のうち

イ 一般会員 下記ロ乃至ニに該当しない者

ロ 学生会員 下記ハ及びビに該当しない者で、大学院 1 年次以上に在籍する者

ハ シニア会員 当該年度の 4 月 1 日現在において 70 歳以上の者

ニ 夫婦会員 夫婦ともに本会に加入する者

(会員に関する規則)

第 34 条 会員の入会、退会及び会費その他に関する規則は、理事会において別にこれを定める。

会員に関する規則

(会費)

第4条 会員は次の会費（年額）を納入しなければならない。

2 本会の会費は次のとおりとする。

- (1) 一般会員 14,000円
- (2) 学生会員 14,000円
- (3) シニア会員 10,000円
- (4) 夫婦会員 10,000円
- (5) 維持会員 50,000円

3 略（夫婦会員についての規定）

(会員の特典)

第6条 会員は次の特典を享受することができる。

- (1) 本会が刊行する和文及び英文の学会誌を無料で配布を受けることができる。
- (2) 本会が発信するニューズレターを無料で配布を受けることができる。
- (3) 研究発表会において報告を行い、又は学会誌に投稿することができる。
- (4) 本会の行う各種の行事に参加することができる。

2 規定改正

以下の規定改正を行う。

会員に関する規則 第4条の改正

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、第6条第1項に定める特典のうち、(1) および (3) の享受を希望しないシニア会員の年会費を免除する。